

〔 4 〕 学会委員会

委員長 諸永 幸子

1) 委員会 11 回

2) 検討事項

(1) 第 25 回福岡県看護学会について

- ①運営方法(マニュアル)について ②シンポジウム企画について ③研究発表支援員について
- ④抄録選考について ⑤学会長賞について ⑥看護研究セミナーについて ⑦座長について
- ⑨発表者と支援員のための説明会及び面談会について ⑩企業展示・広告について

(2) 第 26 回福岡県看護学会について

- ①日程・テーマ・特別企画等について ②開催方法(オンデマンド含む)について
- ③特別講演・シンポジウム・特別企画について ④学会ポスターについて
- ⑤令和 8 年度のスケジュールについて

(3) その他

- ①委員長、副院長の互選について
- ②令和 8 年度学会委員会活動内容事業計画・予算書作成について

2. 活動報告

(1) 研修名 「第 25 回福岡県看護学会 看護の未来がここから始まる」

開催日 令和 8 年 1 月 24 日 ナースプラザ福岡にて集合開催

令和 8 年 2 月 5 日～3 月 5 日 オンデマンド配信

内 容 ①口頭発表 21 演題・示説発表 12 演題

②特別講演 「ダイバーシティと健康経営を考える」

講師 大橋運輸株式会社 代表取締役社長 鍋嶋 洋行 氏

座長 福岡県看護協会 会長 濱田 正美

③special report 「海外での医療経験を通して考える 看護師に期待されること」

講師 福岡赤十字病院 看護師長 橋本 香織 氏

④シンポジウム

「多様化する看護の未来 みんなちがっていいんだよ それぞれのキャリアデザイン」

講師 福岡和白病院 池田 綾 氏

北九州市立八幡病院 井筒 隆博 氏

福岡看護大学 山中 富 氏

認定 NPO 法人にこり 松丸 実奈 氏

コーディネーター 福岡国際医療福祉大学 生涯教育センター

大和 日美子 氏

⑤委員会報告Ⅰ 「介護施設等に実施した 11 年間の感染対策ラウンド活動

～施設アンケートを含めて見えてきた効果と課題～」

報告者 福岡県看護協会 感染管理委員会／医療法人八女発心会

姫野病院 中西 穂波 氏

⑥委員会報告Ⅱ 「プラチナナースの現状と課題～実態調査からみえたリアル」

報告者 福岡県看護協会 社会経済福祉委員会／

福岡大学病院 濱松 美香 氏

⑦協会報告Ⅰ 「皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程～これまでの軌跡～」

報告者 福岡県看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程 主任教員

角井 めぐみ 氏

⑧協会報告Ⅱ 「～知り合う 繋がる 共に進む～『看護管理者が共に学びを深める会』報告」

報告者 福岡県看護協会 認定看護管理者教育課程 専任教員

本多 里美 氏

⑨看護研究セミナー 「現場が研究になる！実践から生まれる気づき」

講師 令和健康科学大学 看護学部長／教授 辻 慶子 氏

⑩医中誌体験コーナー 「医中誌で文献検索を体験してみよう!!」

対 象 564名(集合409名、オンデマンド155名)

(2) 情報交換会「発表者と支援員のための説明会及び面談会」

開催日：8月6日

内 容：学会発表者の研究に対して原稿や発表のまとめ方等の支援を行い、最終原稿の作成を支援する

対 象：学会発表者及び発表を支援する支援員

参加者：15組／発表者15名、共同研究者8名＋支援員15名 他発表者2組は、Zoomにて面談実施

3. 今後の課題・検討事項等

第25回福岡県看護学会は、第24回と同様に、通常開催およびオンデマンド配信を併用したハイブリッド開催とした。委員会では毎年、より質の高い学会開催を目指して企画・運営に関する検討を重ねており、今回も有意義な学会を開催することができたと評価している。また、今回より学会集録集については、携帯性を考慮し、従来のA4サイズからB5サイズへ変更した。

学会全体の評価については、アンケート内容を昨年度から一部変更したため、参加満足度の直接的な比較はできないものの、9割弱の参加者が「満足」と回答していた。また、「ここ何年かの研修会の中で、ダントツに意味のある一日を過ごせた」「特別講演やシンポジウムがとても勉強になった」といった意見も寄せられ、高い評価を得ることができた。

特に注目された演題としては特別講演が挙げられ、「組織が元気になるヒントをもらえた」「明日から頑張るための力をもらった」「明日からの看護に活かせる内容だった」などの感想があった。他業界の取組を紹介することで、看護における人材育成や業務改善においても、ダイバーシティ経営や健康経営が重要であることを参加者に伝えることができた。

シンポジウムについては、シンポジストの皆様のご協力により「“みんな違っていい”多様性を伸ばしていく時代であり、認め合いながら取り組んでいきたいと意欲をもらった」「それぞれがキラキラと発表されており、元気をもらった」「ワークライフバランスやキャリアを考えるための良い助言になった」「非常に触発された」というような前向きな意見が多数寄せられ、今回のテーマに即したものであったと評価できる。

一方、今後の課題として、アンケート回収率が20%台と低かった点が挙げられる。次回以降は、学会集録集に二次元コードを記載し、その場で回答できるようにするなどの工夫について検討が必要であるとする。

学会参加者数、参加者の年代構成については、昨年度と同様であった。一方、オンデマンド配信については申込者数と比較して実際の視聴数が下回り、最後まで視聴された参加者も少数であった。費用対効果の観点から、次年度は集合開催のみとする方向で検討している。また、special report と口演発表が同時刻であったため、参加者が分散した状況が見受けられた。他にも、企業出展への参加が少なかったことや、会場によっては出展担当者と口演発表者の声が重なっていた場面も確認された。これらのことは、プログラムがややタイトであったことが原因と考えられる。

次年度は、より多くの参加者が自由に学会を楽しめるよう、今回の評価や課題を踏まえ、委員会の運営に尽力していきたい。